THE PRESS ザ・プレス 国際高

発行所
富山市願海寺水口444番地
富山国際大学付属高等学校
新聞部
ホームページアドレス：https://www.tuins-h.ed.jp
印刷所　北日本印刷株式会社

6つの部 全国で輝け

夏の大会に見参

この夏も国際高から、バドミントン、柔道、放送、新聞の4つの部活動と、個人登録の弁論、水泳の2つの部門が全国の大舞台に挑む。

バドミントン部 小田さん インターハイへ

バドミントン部は、小田楓さん（28H）＝写真＝が6月5日に行われた県高校総体の女子個人対抗シングルスで見事に優勝し、インターハイ出場の切符を手にした。

優勝を決めた瞬間、「うれしかった」と話す小田さんは、インターハイに向けて体力強化の練習に励む。辛い時でもチーム全員で声を出し、盛り上げている。

目標はベスト16入り。「自分に自信を持ってプレーしたい。2年生でつかんだチャンス。今後につなげられるような成績を残す」と意気込む。

インターハイは個人対抗シングルスが8月20日、北海道札幌市の北海きたえーる（北海道立総合体育センター）で行われる。

柔道部 西野さん インターハイ出場

柔道部は、西野佑麻さん（38H）＝写真＝が5月27、28日に行われた県高校総体の男子個人戦60キロ級で優勝し、インターハイの出場権を獲得した。

西野さんは県大会決勝を振り返り「対戦成績3勝3敗のライバルとの一戦になった。勝ちにこだわって4勝目を勝ち取った瞬間、感動が込み上げてきた」と語る。

まずは初戦突破が目標。「最後の1秒まで勝ちにこだわり、上を目指して頑張りたい。高校生活最後の試合、自分らしい柔道で楽しんできます」と話した。

インターハイの男子個人戦60キロ級は8月9日、北海道札幌市の北海きたえーる（北海道立総合体育センター）で行われる。

弁論 谷口さん 県代表で総文祭へ

谷口奈津未さん（31H）＝写真＝が、8月1日から3日にかけて鹿児島市のサンエールかごしまで行われる第47回全国高校総合文化祭（2023かごしま総文）弁論部門に、富山県代表として出場する。

弁士は7分間以内で弁論を行い、7人の審査員によって論旨60点、表現40点の計100点満点で採点される。

今は発声練習や言葉一つ一つを意識した練習に励んでいる谷口さんは「貴重な経験ができることに感謝し、練習してきたことを十分に発揮して悔いが残らないようにしたい。精一杯頑張ります」と話していた。

放送部 43年連続でNHK杯に出場

放送部＝写真＝は6月18日に行われた第62回県高校放送コンテストで、ラジオドキュメント、テレビドラマ、研究発表の3部門で優秀賞2位を獲得し、7月24～27日に東京で行われる第70回NHK杯全国高校放送コンテストに43年連続で出場が決定した。

「歴代の先輩達が築き上げてきた伝統を今年も達成でき、安堵とうれしさで一杯だった」と県大会を振り返る部長の藤島永吏さん（33H）は「目標は、研究発表部門でNHKホールで発表できる2校の中に入ることと、決勝進出です」と力強く話した。

新聞部 全国総文祭に27年連続出場

新聞部は、7月29日から31日にかけて鹿児島市の志學館大学で行われる第47回全国高校総合文化祭（2023かごしま総文）新聞部門に出場する。

本校は、昨年12月の「第27回全国高校新聞年間紙面審査」予備審査で入賞し、全国総文祭の表彰参加での出場権を得た。同審査には27年連続で入賞しており、今年の総文祭での本審査でも受賞が期待される。また、全国の高校新聞部員で編成された班で鹿児島県内各地を取材し、交流新聞を作成する。

川口はるひさん（21H）は「他校との交流や取材を通して、より良い学校新聞づくりにつなげられるように頑張りたい」と抱負を述べた。

他に、8月13、15の両日に北日本新聞に掲載される全国総文祭ニュース「らいちょう」の取材も行う。

水泳 坂田さん 日本選手権飛込に出場

坂田力毅さん（16H）＝写真＝は、9月1、2日に栃木県宇都宮市の日環アリーナ栃木屋内水泳場（栃木県総合運動公園屋内水泳場）で行われる第99回日本選手権飛込競技に、1m飛板飛込、3m飛板飛込、シンクロナイズド3m飛板飛込の3種目で出場する。

「すごい選手しかいない大会に出場できることが決まってとてもうれしかった」と話す坂田さんは現在、出場種目を中心に練習し、完成度を上げるためにトレーニングにも励んでいる。入賞を目標に掲げ「まだ自分は他の選手よりも劣っているが、自分のベストを尽くせるように頑張りたい」と意気込んだ。

第59回体育大会 朱雀団総合V

一人一人が主役

第59回体育大会が6月14日、「輝（shine）～今日の主役は俺らで show～」のテーマのもと行われた。赤青白黄の4団が総合優勝を目指し、コロナ対策の緩和を受けて充実した競技や応援の他、デコレーション、衣装の各部門で競い合った。

総合優勝に喜ぶ朱雀団

前日までの梅雨空で天候が心配されたが、グラウンド全体に大きな歓声が響き、懸命に競技に取り組む国際生たちの姿が多く見られた。「無限8」では昨年と同様、各団40人で1人ずつ連続して縄を飛んだ。国際生たちはタイミングを合わせることに苦労していたが、お互いに声をかけ合う様子が見られた。また、コロナ対策の緩和によって競技が可能となった「1500m追い抜き走」では、勝敗の結果が数秒差の接戦もあり、大きな盛り上がりを見せた。

午後は各団の応援合戦で幕開け。今年は団員全員での応援が可能となり、力強いパフォーマンスを披露した。応援優勝した青龍団（青団）は、チームワーク抜群の切れのある演舞やダンスで魅了した。

応援団長の中村心優さん（37H）は「演舞は一人一人の動きが違うため、練習で何度も動画を撮影し修正を繰り返して苦心した。高校生の時にしかできない経験を仲間と作り上げることができた」と喜びを語った。

総合優勝を勝ち取ったのは朱雀団（赤団）。団長の西野アリーナさん（37H）は「最後に総合優勝と聞き、驚きもあったが団の皆も喜んでくれてとてもうれしかった。高校最後の体育大会が総合優勝という結果で最高」と振り返った。

新聞部は、恒例の体育大会速報を当日に3回発行した。

デコ優勝した青龍団のパネル

【結果】
総合＝①朱雀団②青龍団
競技の部＝①白虎団②黄麟団
デコの部＝①青龍団②黄麟団
応援の部＝①青龍団②白虎団
衣装の部＝①朱雀団②白虎団
【川口はるひ】

応援優勝した青龍団の演舞

1年国際英語コース アメリカ研修に出発

1年1・2組（国際英語コース）の44人は、7月11日にアメリカ語学研修に出発した。一行は27日までの日程で、オレゴン州ポートランド近郊でホームステイを行いながら、PSU（ポートランド州立大学）での英会話の授業やフィールドトリップなどのプログラムをこなして英語力向上を目指す。

出発式に臨む生徒達＝富山空港

富山空港での出発式で、生徒代表の長谷青依さん（11H）は「この研修で異文化理解力を養い、国際社会での活躍に向けた準備ができる。学びや経験を将来につなげていきたい」とあいさつした。

研修中、グループごとに地元のNPO団体でのボランティア活動体験や、オレゴン日系レガシーセンターの見学、オレゴンコースト日帰りツアーなど、多彩なアクティビティも計画されている。

かざぐるま

私たち高校生が生きる現代社会には、非常にたくさんの情報があふれている。世の中にはインターネットをはじめとする様々なメディアがあり、大半の高校生は、スマートフォンやタブレットを通じてそれらに気軽にアクセスすることができる。しかしそこで触れる情報には、真実かどうか疑わしいものや明らかに間違っているものも多い。これらのいわゆるフェイクニュースと呼ばれるものや、偏った価値観に基づき誰かを傷つけるヘイトスピーチに属するものが大量にある★情報が正しいかどうかを判断する能力を身につけるために、高校生のあいだに新聞を読んでおくことをお勧めする。インターネットの発達によって新聞の読者は減っているが、取材した証拠に基づく文章を読むことで、信頼性のある情報とはどんなものかを理解していくことができるだろう★他にも、新聞を読むことは私たち高校生にとって多くのメリットがある。まず、単純に語彙力と読解力アップが期待できる。国語や社会のテストに限らず、語彙力と読解力はあらゆる場面で求められる。受験時の小論文など、思わぬところで力を発揮することができるだろう★さらに、新聞を読むことで教養を身につけることができる。新聞には幅広いニュースが載っており、自分にとってこれまで関心のなかった話題にも出会える。これは自分が検索した情報にしか触れることができないインターネットにはない、大きな利点だ。幅広い教養を持っていれば、友達や先生などと会話をするとき話題が豊富になり、より円滑にコミュニケーションをとることができる。すると人と話すのも楽しくなっていくだろう。これから夏休みに入るが、その時間を利用してみなさんも新聞を読んでみてはいかがだろうか。【東海侑那】

welcome to Tuins-High!

アメリカ姉妹校チェスタートン高校が来校

5年ぶりに友好訪問

アメリカ・インディアナ州にある姉妹校、チェスタートン高校の訪問団が7月4日、5年ぶり4回目。

一行は3日に富山に到着し、1週間を共に過ごすホストファミリーと対面した。そのうち半数は昨年8月に本校からチェスタートン高校を訪問した生徒の家庭で、約1年ぶりの再会を喜び合った。

プレゼンするチェスタートン高校の生徒達

ヒマワリを楽しそうに生ける生徒達

4日には光彩ホールで、第4回国際理解講座としてウエルカム・パーティーが開かれた。チェスタートン高校のプレゼンテーションでは、地元インディアナ州の有名な場所や美味しい食べ物、歴史などを紹介。また、部活動で行っているチアリーディングやバック転を披露し、場を盛り上げた。お返しに本校生徒が日本の伝統文化や富山、学校について英語で紹介。また、富山にまつわるクイズを行い、皆で楽しんだ。

翌4日から7日の間、チェスタートン高校の生徒は午前中はホスト生のクラスに入って一緒に授業を受け、午後は本校で学ぶ4人の短期留学生らとともに多彩なアクティビティーを体験した。

5日は寿司握り体験で、新鮮なマグロやタイなどのネタを使い自分たちで握った寿司を味わった。6日は華道体験。ヒマワリなどを初めて生けたオーガスト・ロビッツさんは「アメリカの学校では体験できない。花をどのように配置するかはとても意味があると分かった」と話した。7日は本校の弓道場で弓道体験にも挑戦した。

土日はホストファミリーと休日を過ごし、10日の朝、名残を惜しみながら富山を発った。

記者の目

国際交流は国際高の特色の一つ。昨年までコロナ禍による規制で訪問交流が難しくなっていたが、今回、姉妹校から訪問団を迎えることができた。国際生にとっても新しい気づきや学びを得る貴重な交流になったようだ。【山田真央】

今号の紙面

2・3面
【特集1】アフターコロナの学校教育
4・5面
【特集2】地震への備え　ありますか？
6面
「学生時代」、「続・留学生通信」、部説など

3校新聞部で合同取材

G7 EDUCATION MINISTERS' MEETING IN TOYAMA AND KANAZAWA
富山・金沢 教育大臣会合

教育の未来像提言

コロナ後の学校の役割 議論

G7（先進7か国）教育大臣会合が5月12日から4日間、富山と金沢で開催された。国内で開催した閣僚会合で、複数自治体による共催は初めて。教育の未来像が提言されたこの会合の取材を、本校新聞部は石動高校、金沢桜丘高校と合同で許された。

期間中には会合に参加する各国大臣らの代表団に富山県の魅力を体感してもらうため、教育関連施設や観光施設を紹介するエクスカーションや、富山の美味しい「食」を堪能してもらう夕食会など様々なプログラムが実施された。会合中のプログラムやおもてなしには県内の子ども達がたくさん関わり、本校新聞部も3月にこの会合をPRするラッピング電車の取材から参加した。

中学生達が堂々と意見発表

5月13日に富山国際会議場で行われた会合では、3月に「富山・金沢こどもサミット宣言書」を作った中学生が両市から5人ずつ参加し、各国の大臣らに宣言書の趣旨などを英語で紹介。この宣言書は、①夢や目標を持ち、自分の良さや可能性を生かします、②多様性を受け入れ、他者を理解・尊重します、③住みやすく、誰もが誇れる街をつくります、④持続可能で幸福な社会を実現します、⑤100年後の明るい未来のためにバトンをつないでいきます」といった内容で、その後、各国の大臣ら10人から「公務員になりたいか」や将来の夢などを質問され、10人の中学生が日本語で丁寧に応じた。「未来の教育はどうあるべきか」とイギリスの代表が聞いたのに対し、女子生徒は「個人に合わせた教育がされたらいいと思う」としっかり答えていた。

課題「継続的に把握」 富山・金沢宣言を採択

14日の本会合では会場を金沢市に移して開かれ、「継続的に課題を把握し、リスクを軽減する重要性を認識する」との文言を盛り込んだ富山・金沢宣言が採択された。G7各国間で自由・平和、法の支配と民主主義の価値観を共有しつつ、以下の基本的考え方に基づいて、各国で教育政策を進めていくことで合意された。

・「民主主義や自由、法の支配や平和の礎」としての教育の普遍的価値を改めて共有しつつ、持続可能な社会の創り手を育む。
・コロナ禍やウクライナ侵略で停滞した国際的な人的交流の促進に向けて協働して取り組む。
・ウクライナも含め危機的な状況にある子供（特に女子）や学生が質の高い教育にアクセスできるよう取り組む。
・生成AIを含めた近年のデジタル技術の急速な発達が教育に与える正負の影響を認識する。

また、G7が目指す取り組みの方向性として、①コロナ禍を経た学校の役割の発揮とICT環境整備、②全ての子ども達の可能性を引き出す教育の実現、③社会課題の解決とイノベーションを結び付けて成長を生み出す人材の育成、④国際社会の連携に向けた新たな価値を創造するための国際教育交流の推進、の4つが挙げられた。

G7教育相会合取材で中学生に質問＝富山国際会議場（石動高校新聞部撮影）

記者の目

中学生がこれからの教育についてしっかり考えているのならば、高校生である私たちも高校生という視点から、これからの教育について考えなければならないと考えた。

富山県でG7教育相会合が行われることで、私たち高校生が学ぶ立場から、これからの教育について考える良い機会となった。より深い学びができるよう、自分自身の意見を持っていきたい。【金岡拓海】

コロナ後の教育「自分事に」
3校新聞部 意見交換会

富山、石川両県で5月にあった先進7カ国（G7）教育相会合を取材した3校の新聞部が小矢部市の石動高校に集まり、6月11日、「コロナ後の教育」をテーマに意見交換会が行われた。教育を受ける立場の高校生が、会合で採択された共同宣言を「自分事」として考え、意見を言い合った。

この意見交換会には、本校と石動高校、金沢桜丘高校の新聞部各2人がパネリストとして参加。共同宣言の「生成系AIの好機と課題」「留学をコロナ前より拡大」「遠隔授業は対面の補完」の三つに関して、各校のアンケート結果を基に議論した。

最初に、全般的な結果として「教育相会合を知っている人は、会合を実施してから増えた」「どんな授業がいいかというのは各校で大きく差が出た」「対面授業の希望は、桜丘、国際、石動という順で多かった」など、様々なデータ分析が紹介された。その後は、三つの主題について協議・意見交換し、それぞれ自分の学校のアンケート結果や学校ごとの取り組みの経験をもとにパネルディスカッションが行われた。

意見交換する3校の新聞部員＝石動高校

生成AI 各校ともに賛否分かれる

①「生成系AIの好機と課題」については、石動高校ではチャットGPTを使うことに47％の人が「あり」と回答。その理由として「そのまま使わず一部を使い、文章の書き方の参考にすることならよい」などの意見があり、使うことに反対の意見としては「自分で書いていないと自分の力にならないから」や「AIが発展するにつれ、自分で考えて行動しなくて済む反面、高校生のウェルビーイングが減少する」といった意見があったことが発表された。

金沢桜丘高校は、「使っても良い」が50％で「使いこなす技術が必要になる」などの意見があり、逆に「思考力の向上が妨げられる」「情報が古い場合や誤っている場合がある」などが反対意見に挙げられた。

本校は「使って良い」が約43％で、「一人で書いたもの以上の文章が作れたり、あまり知らない内容や自分では思いつかなかった着眼点に気づける」「どのような文章構成で書いていけばよいのかを学べる」といった、生成系AIを自分の力を向上させるという点で利用していくといった利点を紹介。逆に「使ってはいけない」は57％と過半数で、「自分の力以上の文を作れてしまい、生成AIを使えない時の文章能力が低下してしまう」「自分の知らないうちに著作権を侵害してしまうことがある」といった危険性などを指摘した。

留学拡大 賛成は本校が最多

②「留学をコロナ前より拡大」について、石動高校では「増えれば良い」という意見が76％と多く、英語の必要性が増す中で多文化の経験は有意義であるという意見が多かったことを紹介。また、日本の学生は忙しく費用も大きな負担になるため、負担が少ない留学機会も豊富に用意して、留学で部活動を休んでも他の人と差ができないようにすべきだという考えも述べた。

金沢桜丘高校では、増えるべきが80％で、石動高校と同じように語学の習得がしやすくなるという意見も多かったようだ。逆に反対意見として、学校だけで忙しいことも挙げられた。

多くの生徒が留学している本校は、増えてほしいという意見は約85％。「留学は自分の知らない文化や問題を知り、自分の意見を持つことができるため必要」「世界の言語を学ぶことができる」「海外留学を行うことで言語や文化の壁を感じることが少なくなる」といった意見を紹介し、他校のパネリスト達もうなずいていた。

オンライン授業 とらえ方は各校で様々

③「遠隔授業は対面の補完」については、金沢桜丘高校では対面授業派80％、オンライン授業派20％という結果だったが、オンライン授業派の意見として、休んでも授業を受けられることや方式によっては先生を選ぶことができるというものが挙げられた。

石動高校は、他の高校と違いオンライン授業派が多く、アメリカの生徒にインタビューした際、「オンラインの性能が上がったことで追加の授業を受けられ飛び級しやすくなったため、生徒の飛び級への意欲が上がると言っていた」と紹介した。反対意見としては、意欲の維持の面で、家だと娯楽などの誘惑があるが学校だとないから保ちやすいなど、実際にオンライン授業を体験した生徒ならではの意見も挙げられた。

本校の結果としては、オンライン授業派が47％で「学校に苦手意識があって登校できない生徒にも有用」「外部の先生や海外とつないで授業を行うことができるため、生徒の学ぶ幅が広がる」「外国語を学ぶきっかけになったり、英語などを身近に感じることのできるような授業をオンラインですることができるので新たな一つの学び方になる」「どこでも好きな場所で授業を受けることができる」という意見を紹介した。

記者の目

オブザーバーとしてオンライン参加していた「LX DESIGN」のCSO板垣達周さんが「これからも周りを巻き込んでこのような機会を増やしていって」と講評した。

参加者から「教育の問題をより身近に感じられた」などの感想が出され、意見交換会を通して新しく得られたものがあったようだ。【土田夏帆】

SDGsと探究こそ未来像 仲井校長先生にきく

新聞部は、国際高における教育の未来像について、仲井章校長先生に聞いた。【北岡夏海】

AIは人間の有能な秘書に

まず、3つの主題について質問した。①ChatGPTなど進んでいるAI技術に対して、校長先生は「簡単に言うと、人間の良き有能な秘書になり得る」と語る。例えばAさんが病気になり手術をすることになったとする。その手術の症例を人間の手で探すと時間がかかるが、ChatGPTに尋ねると一瞬で出てくる。欲しい情報を短時間で見つけ教えてくれるのは便利。しかし、そんなAIでもできないことがある。ChatGPTは事実のみの結果を出し、個性がない。そこに自分の個性を入れることは人間にしかできない。「だから、互いに足りない部分を補ってAIと付き合っていかなければならない」と強調した。

使用例として、「生徒の討論をChatGPTを交えて行う。お互いに足りない点を見つけ、ChatGPTにツッコミを入れる。人間に達していないところ、つまり粗探しをしていくのも非常に面白い活用ができる」ことを挙げ、「会議などで話したいことがある時、ChatGPTが作ってくれた客観的な文章に自分のオリジナルを入れて発表することには意味がある」と指摘していた。

対面授業 はるかにメリット大きい

②対面授業とオンライン授業について。「私はオンラインは嫌い」と校長先生は熱く語った。オンライン授業だと授業に出ようと思ってもモチベーションが働かず緊張感もない。苦労して学校に来て、授業を受けることに意味がある。そして、やはりオンラインと直接聞くのとではわかりやすさが全く違う。対面では生徒どうしで答えを確認し合うことや、先生が生徒の表情を見て授業をすることができる。議論を深める時やペアワークも、対面だからこそできること。直接話すことでコミュニケーションを図りながら授業した方が楽しく、得られるものははるかに大きい。オンラインだと聞きづらく話すタイミングをつかむのも難しいから、対面に越したことはない。

しかし、遠方にいる時や緊急時など、伝達のために一方的に意見を述べるのはオンラインでもいい。「コロナ禍で、テレワークのメリットを感じたり、会議などをオンラインで済ませることもできると気付いたりしたが、その部分はオンラインのいいところ」だと語った。

熱く語る仲井校長先生

海外研修拡大 全面的に賛成

③留学や海外研修の拡大について。「コロナ時は制限が多く残念だったが、復活してきた現在はもっと盛んにすべきだ。国際高で行っている多彩な活動は、本校でしかできない。海外に行く機会が多ければ多いほどいい。日本ではわからないことを現地で見て学び、刺激を受けるのがいい。若ければ若いほど海外へ行くことが大事で、得るものがある」と全面的賛成の意見を熱く語った。

学習を動機づけ自律的に学べ

国際高の教育の未来像については、「今、SDGsに関連づけて全ての学習に意義づけをしている」と語り、「全てのことを学ぶきっかけになり得るのがSDGsで、これを意識することによって、全てのことが自分に関係すると思ってニュースを見たり、自分で考えてしっかりとした人間になることができる。大事なのは普段から考える癖をつけることだ」と話した。

そして、「大事にしてほしい『3つの探究』がある。①自分でいつも考えて探究すること、②ボランティアなどを通していろいろなことを体験して自分の潜在能力、適性能力の探究をすること、③多様性を受け入れてバランスある思考力を身につける探究をすること。この3つを是非、身に付けてほしい。普段の授業から、学習の動機づけを世の中の全てに絡め、自律的に学んでくれるような授業を展開していきたい」と強調した。

まとめ 学校で学ぶ意義、いかに学習するか 自ら考えよう

G7教育相会合のテーマの一つは「コロナ後の教育」。これは滅多にない絶好の機会ととらえた新聞部は、G7会合そのものの取材やその後の3校意見交換会に参加させてもらったり、本校そして部員達の母校の小中学校や大学の変化を取材したりなど、私達高校新聞部員ができることを全力で考え探ってきた。

G7教育相会合が富山で行われることが決まると、県内でも大きな動きが多くあった。期間中までラッピング電車が走行したり、小中学校でG7に関連した給食が振る舞われたり。ラッピング電車には地元大学生がデザインしたイラストが大きく彩られ、会合をPRした。会合本番が近づくにつれ、本校でもアンケートを行ったが、この会合のことを知っている人は多くいた。中には、新聞部の活動で知ってくれた生徒もいて、やりがいを感じた。会合の取材では、G7各国の教育担当大臣がアフターコロナの教育について議論を交わす姿を間近に見ることができた。大臣らはコロナ禍で急激にICT環境を整えなければならなかったことが大変だったと話していたことが印象に残った。採択された富山・金沢宣言では、コロナ禍を契機に明らかになった学校の役割が今後も継続して効果を発揮し、多様で包摂的な社会の基盤形成に向けて取り組むこと、自然体験・文化芸術体験活動の機会を充実することで子どもの社会情動的スキル向上を図ること、そして、対面による教育に加え、リアルとデジタルを融合した教育の促進に向けICT環境の整備を継続するとともに、教師のICTスキルの向上に取り組み情報活用教育を充実させるといった、コロナ禍を経た学校の役割の発揮とICT環境の整備について明記された。

国際高ではコロナ禍になっても、既に全校生徒がiPadを所持していたため、他校よりも素早いタイミングでオンライン授業のメリットを享受できた。このことがアンケート結果にも表れ、「オンライン授業の方が良い」と答えた生徒は他校と比べて多くいた。これに対し、仲井校長先生は新聞部の取材に「対面授業の方が集中できる」とオンライン授業には代えられない様々なメリットを強調し、これらについてはことごとく納得のいくものだった。コロナ禍が3年近く続いてしまい、「オンラインの方が楽」などという意見もある。しかし、アフターコロナの今、自分の記憶や心に残る方はどちらかと言われれば、やはり対面のメリットの方が大きいと再確認した。

こどもサミットでは、中学生ならではの意見が飛び交う中、高校生としての意見も持つべきなのではないかと考えた新聞部では、高校生視点で富山・金沢宣言の内容について検討した。留学や海外研修をどのように広げていくべきかを考えた際、本校の海外との連携力や、多文化や多言語の環境についても改めて再認識できた。

日常生活でマスクを外したり、友達と対面で話したり食事をとることができるようになってきている。コロナ前は普通だったことを、今ではありがたく感じることが多い。教育という面で考えてみても、たくさんの変化があった。この期間、オンラインやICTの環境がものすごく進歩したのも事実だ。私達自身が自ら考え、これからの学びや生活をより充実したものにしていかなければならない。この特集をきっかけに、普段あまり考えることがなかった、学校で学ぶ意義、学習の動機づけや、何に向かってどのような学習をしていくのか、ということに目を向け、努力し続けていかなくてはならない。【金岡拓海】

特集1 アフターコロナの 学校教育

2020年、新型コロナウイルス感染症が世界中に蔓延してから早くも3年以上が経つ。日本では今年5月から感染法上の位置づけが第5類に移行され、混乱が続いていた学校現場でも「コロナ後」を模索する動きが出始めている。

折しも、5月に富山で開かれたG7（先進7か国）教育相会合で話し合われたテーマの1つは「アフターコロナの教育」。新聞部はこれを滅多にない機会ととらえ、今後の学校教育はどうあるべきか、国際高はどこに向かっていくべきなのか、総力で探った。

国際生アンケート オンライン授業普及・コロナの制約で考え方に変化か

G7教育相会合に関する国際生の意識などについて調査するため、全校生徒にアンケートを実施した。有効回答数は270人。なお、これは石動高校・金沢桜丘高校と合同で行ったもののうち、本校のみの結果。

G7教育相会合 知っている67%

Q1．富山市・金沢市で5月12日から15日にG7教育大臣会合が開催されていたことを知っていますか。

本校生徒のG7教育大臣会合の認知度を調べた。「はい」は66・7%、「いいえ」は33・3%だった。知った手段はテレビ、街の掲示物や旗などだった。富山市という身近な場所で開催されていたからか、認知度は意外に高かった。

授業は オンライン／対面派 半々

Q2．オンライン授業や、メタバース内でアバターを使って学校生活などと、対面の授業ではどちらの方が良いと思いますか。

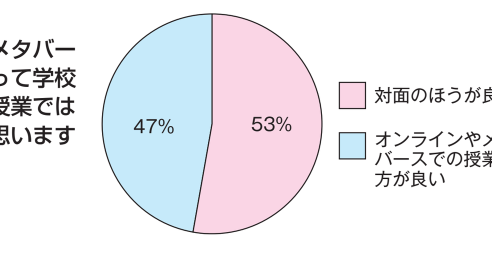
「対面授業の方が良い」は53%、「オンライン授業の方が良い」は47%だった。ほぼ半々だったが、対面が良い理由としては「質疑応答がしやすいから」「緊張感があり集中しやすいから」「オンライン授業やメタバース内だと、生徒はいくらでも誤魔化しが効いてしまうから」などが挙げられた。インターネットが普及しスマホでやり取りすることが増えた今、オンライン授業に対する考え方が変わった生徒もいるようだ。

海外派遣増やすべき85%

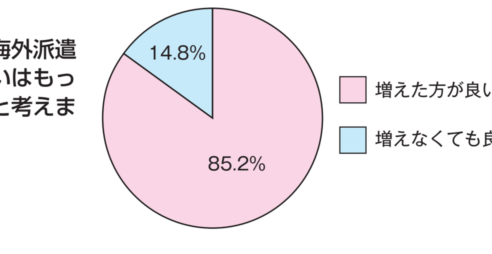
Q3．あなたは学校独自の海外派遣事業などを再開あるいはもっと拡大させるべきだと考えますか。

「増えた方が良い」は85・2%と圧倒的に多く、「増えなくても良い」は14・8%だった。増えた方が良い理由としては、「日常にない経験ができるから」「違う文化の中で過ごすことができるから」「外国語の取得に有効だから」などが挙げられた。グローバル化が進み、海外の文化や言語に興味を持つ人が増えたようだ。

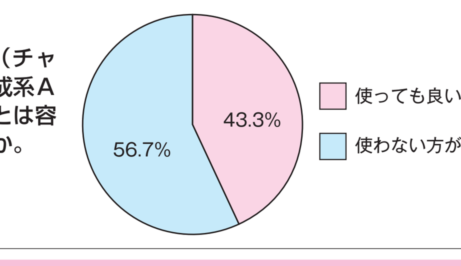
Q2
オンライン授業や、メタバース内でアバターを使って学校生活などと、対面の授業ではどちらの方が良いと思いますか。

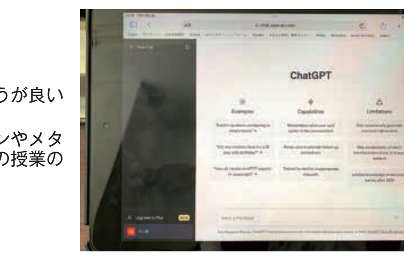


Q3
あなたは学校独自の海外派遣事業などを再開あるいはもっと拡大させるべきだと考えますか。



Q4
あなたは「ChatGPT（チャットGPT）」などの生成系AIを課題に利用することは容認すべきだと思いますか。





生成AI 賛否両論

Q4．あなたは「ChatGPT（チャットGPT）」などの生成系AIを課題に利用することは容認すべきだと思いますか。

「使っても良い」が43・3%、「使わない方が良い」は56・7%とほぼ差がなかった。使っても良い理由としては、「これからはそうした技術を活かすべきだから」「その方が自分で考えるより優れているから」などが挙げられたが、課題の性質上、自分の力で考えた方が良いからという意見もあった。世間でChatGPTの使用について賛否両論があるが、国際生の中でもそういった意見の違いがあることがわかった。

国際高ビフォア&アフター

今年5月8日から、日本では新型コロナウイルス感染症は感染症法上の位置づけが「5類感染症」に変更された。それに伴い、国際高でもマスクを外す生徒が増えるなど、学校生活全般に様々な変化が見られるようになった。

アクリルの遮蔽板ごしにグループ学習（2020年7月）

まず、コロナ時の卒業式には在校生が参加することができず、YouTubeライブで家から視聴することができるようになっていた。今年から在校生も式に参加できるようになり、通常通りに戻った。また、卒業式や入学式の際、入退場時にはマスク着用の必要なしとなった。

6月の体育大会は、今年から通常通りの規模に戻すことが決定された。競技数も増え、応援紹介には団リーダーだけでなく全生徒がフィールド内で参加することになった。そのため応援練習の時間も設定され、コロナ時と比べると団の一体感を感じることができるようになった。

秋の文化活動発表会は、コロナ禍が蔓延した3年前はクラス展示を行うことができず、各文化部と生徒有志の発表のみ、各教室でオンライン視聴した。去年から3年ぶりに通常の形式に戻り、対面で開催された。

2年生の研修旅行は、各自で用意されたコースを選択する。今年から海外コースが復活し、多くの生徒が海外を希望しているようだ。一昨年は研修旅行そのものが中止になり、昨年はコロナ感染拡大を懸念し、九州、関東、沖縄の国内のみのコースで行われた。

海外姉妹校との訪問交流も昨年8月から再開。国際英語コースの海外語学研修も、今年7月に1年生のアメリカ研修、8月に2年生の韓国研修が復活する。

また、長期留学は昨年から復活傾向に。現3年生は29人が留学から帰国しているほか、今年も38人の2年生が留学を予定している。

◇　◇　◇

授業の方法も少しずつ変わってきている。コロナ時には難しかったペアワークやグループワークが行われるようになり、以前よりも生徒どうしでコミュニケーションをとることができて意見交換の場が増えた。また、コロナ時は総合的な探究の時間などで行われる講演会の大半がオンラインで行われていたが、現在は直接、講師の方から対面で話を聞く機会が増えた。

新聞部で取った生徒アンケートで、授業方法は「対面」と「オンライン」のどちらの方が良いかという問いに「対面」が53%、「オンライン」が47%と対面がやや上回る結果となった。オンラインもメリットを生かしつつ臨機応変に利用していくことが大切だ。

今年度から、毎朝行っていた「生徒健康調査」がなくなった。生徒健康調査は毎朝メールに送信されてくるフォームに体温や体調を入力するという取り組み。5類移行を受け、廃止された。

コロナ後の変化は学校行事のみならず、施設にも現れている。食堂や職員室では、設置されていたパーテーションが撤去された。また、食堂では座席数が増え、対面配置が復活するなど、コロナ時に比べると利用できる人数が増えた。【花山栞穂】

教育現場では今

アフターコロナのいま、学校現場はどうなっているのか。新聞部は、いろいろな学校に取材し現状を探った。

今までの枠越えた挑戦を 富山国際大 子ども育成学部長 松山先生にきく

アフターコロナの教育について6月8日、富山国際大学子ども育成学部長の松山友之教授に聞いた。

優しい眼差しで語る松山教授＝富山国際大

オンライン講義から得られた教訓生かす

富山国際大はコロナウイルス蔓延防止のため、2020年から入学式は行わず、オンライン講義を取り入れ始めた。そのため、オンラインで初めて対面した学生どうしのコミュニケーションが不十分であり、関わるのも学籍番号が近い人だけという大きな課題を抱えた。しかし、定期的に「席替え」を行ったり、オンライン講義でも学生のカメラをオンにするように指示したりしたことで、グループ内で会話が弾み距離を縮めることができたため、大学に来られた時や活動の際に学生達自身が少しずつ仲良くなろうとしている姿が見られたという。

また、オンライン講義において、五感を通した体験ができずに学生が受け身になってしまうという問題も挙げられ、90分間の講義中に節目を作りながら、決して座学のみにならないようにすることが必要となった。しかし、広い教室で大人数に向けて行う対面授業と比べ、オンラインの方が学生との距離を近く感じることができ、オンラインでも互いの表情を見て話すことが重要であるということが分かったという。「高校生の皆さんも、マスクなしでの活動が可能となった今、SDGsに関する取り組みや海外との交流などに積極的に参加し、今までの枠を越えた挑戦をしていくことが必要になるだろう」と話してくれた。さらに松山教授は相田みつをの「人を動かす力は感動だけ」という言葉を挙げ、「人は感動して動くことはあるが、理屈で動くことや『理動』という言葉はなく、理屈でない話をどのように自分のものにするかを大切に学んでほしい」と興味あるものを自主的に学ぼうとする姿勢の大切さを語った。

生成AI 使う意味理解し正しい選択を

アフターコロナの教育形態が改善される一方で、今、学生のレポートや課題などにおいて生成系AI（人工知能）であるチャットGPTの使用が問題視されている。例えば、大学受験時の志望理由書であれば、自分にしかない長所や自分しか体験していないことが重視されるため、チャットGPTを使用することで自分の実績よりも低い内容の文章になる恐れがある。この問題を踏まえた上でのチャットGPTとの正しい付き合い方として、「自分の知らないことを補うという目的や、自分の意見や意思を強く持っている前提が挙げられる。そのため、使う意味をしっかり理解していることと、使うべきところの選択を間違えないことが大切」と指摘した。

なお、国際大でも生成系AI使用についてのガイドラインを作成中だという。

記者の目

アフターコロナの教育をコロナ前よりも良いものへと変えていくために、子ども育成学部の学生に対して松山教授は「たくさんの挑戦や冒険をし、のびやかな子どもをたくさん増やしていってほしい」と望んでいる。また、国際生に対しては「今からでも面白いことや楽しいことができる夢を持って、精一杯に取り組んでほしい」と語った。アフターコロナで変わっていく教育の中で、学校での学びをコロナ前よりもさらに改善されたものにするためにも、自分にしかできないことや新しい挑戦をする努力を怠らないことが求められる。【川口はるひ】

コロナ後は「慣らし」時間増 富大附属小

富山大学教育学部附属小学校の土合真祐教頭先生に取材した。

まず、コロナ前と後の変化についてお話を伺った。コロナ時の修学旅行では県外には行けず、黒部などの県内の行き先になった。コロナ感染が蔓延した3年前には登校時間をずらし、低学年、中学年、高学年と時間を区切って授業を行ったりしていた。対面授業が行えなかったため、授業動画を配信して、算数などの座学はもちろん、体育なども配信した動画を見てもらう形をとっていた。その後、児童にChromebookを配布し、オンライン授業も行った。「子ども達と直接の関わりがないのが心配だった」と土合先生。アフターコロナの今、学校がコロナ前の授業に戻そうとしていく中で、怪我が多くなったり、体力の低下が目立ち、「慣らし」の時間が増えたということだ。また、コロナ時の給食は、使い捨て手袋の着用や黙食の徹底などが行われていたそうだ。

次に、コロナ前と比べた家庭学習の変化などについて聞いた。附属小では家庭学習や課題の量も大きく変化することはなかったが、授業の変化や、コロナ時のオンライン授業で培った先生の技術が向上したということが挙げられた。小学生でも、写真を撮って共有したり、Googleフォームを使っての授業を受けたりしたため、授業形態が元に戻った現在も電子機器の使用が増えているという。低学年でも連絡帳にGoogleスライドを使ったりと、様々なことが電子機器を活用した形態になってきていると話してくれた。

コロナ禍での学校生活で、小学生が不安にしていたことはあるかと尋ねると、「不安そうにしている子どもはあまりいなかったが、話をするのが苦手になっていたりする子どもが少しいたくらい」とのことだった。

最後に、高校生へのコメントをいただいた。「今までは、（対面での）リアルな関わりを大事にしてほしいと思っていたが、時代の流れからインターネットでもリアルと遜色ない関わりをとれるようになった。これからを生きていく上で、いろいろな価値観を知ってほしい。周りから言われた意見に対して考えることが多くなってきているが、いろいろな視点や価値観を持って様々な人と関わってほしい」と要望していた。【金岡拓海】

取材に答える土合先生＝富大附属小

制限緩和 学習しやすく 呉羽中

富山市立呉羽中学校の川田あゆみ先生に取材した。

まず、コロナによる学校行事の制限の変化について聞いた。コロナ時は保護者の参加が密にならないように、消毒などの対策も行い、体育大会などでは参加人数の制限や、健康チェック表を保護者にも配り検温などを徹底していたそうだ。今年は行事での人数制限はなしと、緩和してきている。また、修学旅行では先生がいないところでの飲食は昨年まで禁止だったが、今年からはそれも解禁され、好きに飲食することが可能になるという。

生徒の家庭学習の変化について聞くと、「学習計画実践表」などはあるがデータ化はしていないため詳しくはわからないが、川田先生の感じ方としては「（コロナ時は）家にいる時間が長くなったため、勉強していた人は今も頑張っているように感じる。逆に、自分のやりたいことをやって勉強しなかった人もいるだろう」ということだった。

今後、生徒にしていきたい授業について尋ねてみた。コロナが始まってすぐの頃は、簡易給食だったり時間差登校といった対策を取ったり、体育の授業ではバスケットなどのボールを共有する競技で授業前後にボールの消毒などをしていたが、今は自分で意識して手を洗うということにまで緩和してスポーツを楽しみやすくなるなど、先生方が教育計画に基づいてやりたいことはできるようになったという。現在は、コロナ禍ピークの時にできなかった「14歳の挑戦」などを始めとした行事が復活しつつあり、総合的な学習もとてもしやすくなったそうだ。川田先生は、緩和しつつある学校生活を明るく前向きに捉えている様子だった。【土田夏帆】

取材に答える川田先生＝呉羽中

できること増え実感させる授業に 城山中

富山市立城山中学校の土井真由美教頭先生にインタビューしたところ、コロナ後にできることが増えていた。

コロナ前後の行事の変化について聞いた。まず入学式・卒業式は、コロナ時は在校生はどちらにも参加できず、コロナ後は元通りではないものの在校生はギャラリーで参加し、吹奏楽部の演奏もあった。

体育大会は、コロナ時は接触しない競技に絞り、毎年盛り上がる騎馬戦もなくなった。団演技は大きな声出し禁止で、体育大会全体として時間が短縮され保護者の参加もなかった。今年は競技と団演技は昨年と同様だが、保護者の参加ができるようになった。

学習発表会は、コロナ時は他クラスの合唱を見ることができず、保護者も該当の学年しか見ることができなかった。今年はこれが全てできるようになった。

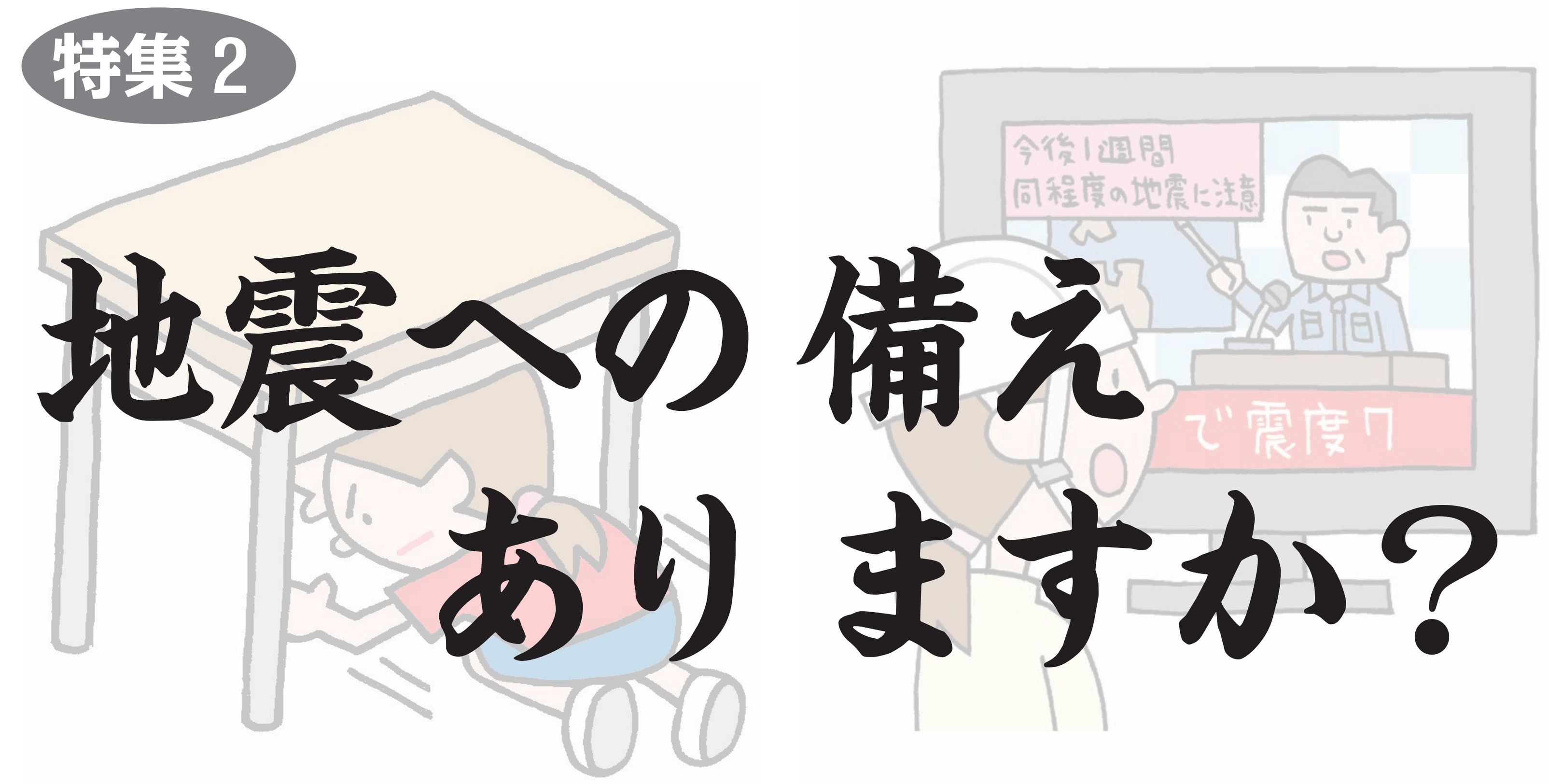
修学旅行・校外学習は、コロナ時は近場だったが、今年は遠くに行くことができた。また、班別活動もできるようになった。

給食については、今まで通り廊下で配膳をしている。しかし、近いうちに机をくっつけて友達と食べられるようになる予定だ。

「コロナ後の今、生徒にしていきたい授業」について聞いた。「わかる」「できる」を実感させたい、と即答された。「やればできた」を実感させ、自信をつけさせ、もっとやりたいと思わせる授業を実践したい、と話していた。【山本瑞姫、山藤亜純、舟瀬愛唯】

特集２

地震への備え ありますか？



今年５月、石川県の能登半島にある珠洲市で起きた震度６強の地震は、富山でもその威力と怖さを思い知らされた。能登半島では、同じ地域で集中的に発生する「群発地震」が数年前から続いている。富山でも大地震が起こる可能性はあるのか。国際高の校舎（本館・東館）は築年数がまだ浅く丈夫そうだが、地震・防災対策は万全と言えるのか、私たちはどのように備えるべきなのか……新聞部は全力で探った。

国際生アンケート 危機意識あるが 家庭で地震対策17％

地震に対する国際生の危機感と関心について調査するため、新聞部は５月、全校生徒を対象にアンケート調査を実施した。有効回答数は622人。

学校の避難訓練は真面目に

Q1．家庭で地震対策を行っていますか？
「はい」が17％、「いいえ」が83％。大半が家庭で地震対策をしておらず、家庭での地震対策に関心がない生徒が多いようだ。これを機に、地震対策について関心を持ってもらいたい。

Q2．（Q1ではいと答えた人に）どんな地震対策をしていますか？
「防災グッズの用意」、「非常食、食料の備蓄」、「避難場所、経路の確認」、「家具の固定」などが挙げられた。一部の生徒の家庭でこのような対策をとっているのは良い傾向だが、大半の生徒の家庭はこれらの対策を何もしていないという現実が浮かび上がった。

Q3．国際高で行われている地震対策を知っていますか？
「はい」が8％、「いいえ」が92％。生徒のほとんどが本校の地震対策を知らないということがわかった。地震が起きた時に有効な対処をするために、再度、本校の対策を確認する必要がある。

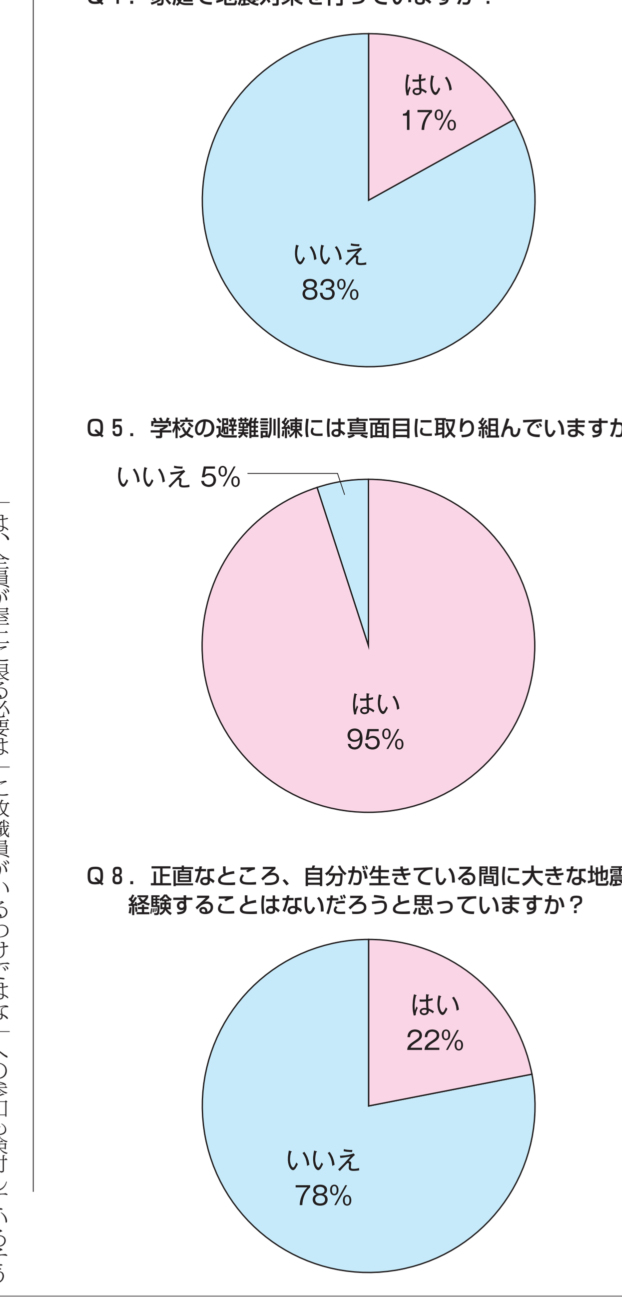
Q4．（Q3ではいと答えた人に）国際高で行われている地震対策で思いつくものを挙げてください
「避難訓練」、「避難経路の掲示」、「机の下に隠れる」、「耐震校舎」、「階段が二つ」、「おはしも（押さない・走らない・しゃべらない・戻らない）」などが挙げられたが、このような対策が多くの生徒にほとんど認知されていないということがわかった。

Q5．学校の避難訓練には真面目に取り組んでいますか？
「はい」が95％、「いいえ」が5％という結果になった。この結果から、ほとんどの生徒が避難訓練に真面目に取り組んでいるということがわかった。一方で、一部の生徒からは「避難訓練に真剣さが足りない」、「今の訓練では意義が感じられない」といった声も上がっていた。

Q6．地域の避難訓練に参加したことがありますか？
「はい」が24％、「いいえ」が73％だった。地域の避難訓練に参加したことがある生徒は少ない。この結果は、学年による差もみられなかった。

Q7．家で地震が起こった際の避難場所は把握していますか？
「はい」が70％、「いいえ」が30％。生徒の7割が避難場所を把握しているが、残りの3割は把握していないことがわかった。家族と話し合ったりして、避難場所を把握しておくことが大切だ。

Q8．正直なところ、自分が生きている間に大きな地震を経験することはないだろうと思っていますか？
「はい」が22％、「いいえ」が78％と、約8割の生徒が自分が生きている間に、大きな地震を経験する可能性があるかも知れないと考えていることがわかった。しかし、このアンケートの結果、家庭で地震対策をしている割合が非常に低いなど、まだまだ現実の可能性として捉えられていないことが見て取れる。【村野天飛】



校舎は震度6強までOK 国際高の地震対策

新聞部は、国際高の南事務長さんと総務部長の大澤先生に、本校の地震・防災対策について話をきいた。

富山短大は第3次避難所

南事務長さんに本校のハード面での対策について尋ねた。

国際高校舎の耐震性能は、場所によって異なる。新校舎は震度6強まで耐えることができるが、築年数が古い光彩館や明窓会館は6強までは耐えられないそうだ。新聞部は、2012年3月発行の「新校舎竣工記念号外」で「昨年2月に完成した本館、今年2月に出来たばかりの東館ともに、（中略）震度6強の地震で倒壊、崩壊せず、震度5強程度の地震では損傷もしないという堅固な耐震性能を備える安心・安全な建物」と紹介している。ただし、「想定は基本的に大丈夫ということで、被害が0ということではない」と事務長さんは付け加えた。

学校で行っている防災対策については、避難経路や消火器、屋内消火栓の前に物を置かないように気を付けている、とのことだ。校内に配置されている屋内消火栓、消火器の前には椅子や机など消火活動の妨げになるような物は置かないこと、非常時の避難経路、特に避難誘導灯の設けられている非常出口や防火扉の周囲に支障となるような物を置かないことは鉄則だ。なお、これらは毎年1回、呉羽消防署による査察が行われているそうだ。また、火災報知器の点検も半年に1回行っている。これは法律で決められているそうだ。

非常用の備蓄品について尋ねると、高校校舎内にはないが、学園本部（短大F館）に飲料水や缶入り乾パン、毛布、救急箱、マスクなど最低限のものは常備されているとのことだ。富山短期大学は災害対策基本法に基づいて、第3次避難所（高校・大学など）に指定されている（収容人員780人）。ここに地域の人が避難できるようになっている。

津波が来た時、本校の屋上に逃げることはできるのか、その場合は何人までが限界かと聞いてみたところ、「富山市の津波ハザードマップでも確認できるように、この地域は津波の被害想定に入ってないので屋上に避難する想定になっておらず、人数は答えづらい」としたうえで、「生徒が高校の校舎で避難する場合は、全員が屋上に限る必要はなく、上の階であれば全員避難に問題ない」そうだ。

事務長さんは「いつも学校に教職員がいるわけではない。地震の際は各自の判断で逃げることが大切」と強調していた。

生徒の防災意識高めたい

大澤先生に、主に学校の避難訓練について尋ねた。本校では年に2回、1学期中間考査、2学期中間考査の最終日に避難訓練を設定している。1学期は主に避難経路の確認、2学期には実際に避難にかかった時間を計時し、呉羽消防署の職員の方も状況をチェックし講評をいただいている。

「コロナ前」までは訓練終了後に各学年に分かれ、防災講話や消火訓練として消火器や消火栓の実習も行われていたが、近年は密集を避けるため中止されていた。今年から復活できるかを検討中とのことだ。

大澤先生は「生徒達の防災意識を高めることに重点を置いている」と話す。当面は、8月30日～9月5日の防災週間に向け、生後会執行部・委員会から全校生徒に啓発活動を期待するとともに、地震を想定し発生直後の身を守るための安全確保行動を身につける「県民一斉防災訓練～シェイクアウトとやま2023」への参加も検討しているそうだ。

「誰かが危険から守ってくれるのではなく、自分の身は自分で守ること、さらに困っている人達に対し自分は何ができるかを考えられる人になってほしい」と話していた。【森千都世】

防災→「減災」に留意しよう

富山でも地震エネルギー溜め込まれている 県防災士会 上田さんにきく

いつ起こるかわからない地震に、私たちはどのような備えをするべきなのか。新聞部は、NPO法人 富山県防災士会事務局長の上田司穂さんに話を聞いた。

呉羽山断層帯地震で 国際高は震度6強から7

まず、富山で地震が起きた時、国際高近辺ではどのような被害が想定されるのかを聞いた。富山市近辺では、呉羽山断層帯が地震を起こすと大きな揺れに見舞われる可能性が高く、国際高の近辺では震度6強から7の非常に大きな揺れが想定されるという。富山県は全国一、大きな揺れの少ない県と言われるが、「これは全くの安心材料ではなく、むしろ着々と地震を起こす準備ができている（エネルギーを溜め込んでいる）と捉えるべきだ」と上田さんは危機感を示した。

地震による二次被害はどのようなものがあるのか。地震による直接被害は、建物倒壊、道路損壊、山崩れや堤防決壊などの物的被害が想定される。一方、二次被害は、停電、断水、公共交通機関停止による被害、長期避難所生活による健康不良などが問題となる。私たちの日常生活では、電気、水、火は当たり前にあるものだが、これらが使えなくなることを考えると、心身に異常をきたすことも想像できるだろう。

「減災」には自助と共助 重要

次に、県全体として行われている防災対策について聞いた。自然災害が起こることは防げないため、私たち一人一人が「減災」に留意する必要がある。理想的な防災社会の実現には、「自助」＝自分と家族は自分が守る、「共助」＝自分たちの町は自分たちで守る、「公助」＝行政による減災活動と復興活動、これらの3つがうまく噛み合うことが必要とされている。しかし、行政の仕組みは作られているが、まだ住民の理解が追いついていないのが現状だという。

富山県防災士会では、このうちの自助と共助の重要性を訴えるため、様々な町内で防災講座などを実施しているそうだ。また、居住地区の防災力を高めるため、「地区防災計画」の策定を支援している。「地区防災計画」とは、地域住民らが自発的につくる防災活動に関する計画だが、現在、富山市内で10校区ほどしか提出されていないという。普段からの一人ひとりの減災に対する意識が、いざという時の安心材料になるだろう。

分かりやすく語る県防災士会の上田さん

学校でも最低限の準備を

地震が発生した時にするべき行動について聞いた。揺れを感じたら、頭部を守ることが一番大切だ。海側に住んでいる人は津波の心配をすることも必要になる。家の中では台所から離れる、落下の危険があるものから離れる、出口の確保をすることも命を守るために大切だ。そして、地震の揺れから命を守るためには日頃の対策が重要になる。特に寝ている時は無防備になるため、周りに危険なものを置かないなどの対策が必要だ。他にも、非常持出し品の準備や、家族と安否確認方法を決めておくなど、日頃から対策できることは多い。

特に学校で地震が起きた場合には、自分勝手な行動は慎み、先生の指示に従うことが大切だ。また、生徒と先生が学校に泊まらざるを得ない場合を想定し、水、食料、充電器、生理用品など、自分たちで最低限の準備をしておくべきだという。国際高は女子生徒の数が多いため、特にトイレの対策は考えるべき問題だと指摘していた。さらに、学校行事で使うものは災害時にも役立つものが多くあり、ロープ類やゴミ袋、古新聞紙、ラップ類、ガムテープ類などは非常時に使えるため、学校の倉庫に何があるのかを事前に把握しておくことが必要だと話した。

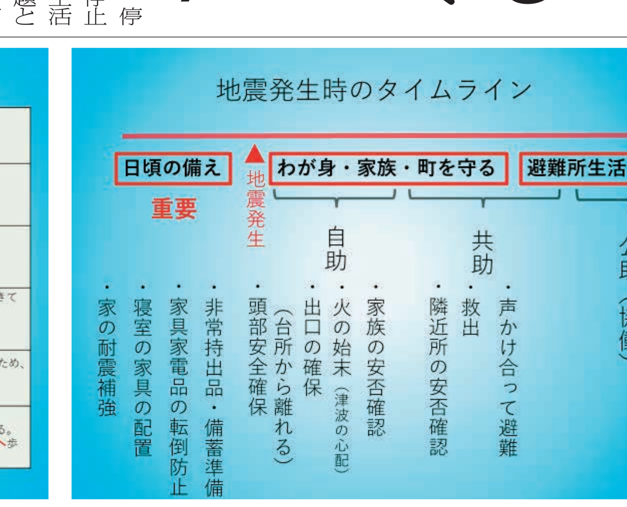
記者の目

今回、話を聞いた「防災士」の資格取得には年齢制限がなく、高校生や親子で資格を持っている人もいるという。防災士の活動は、防災講座、保育園での防災絵本の読み聞かせなど幅広い。上田さんは防災士について「防災の知識が増え、やりがいがある。ぜひ多くの高校生にも活躍してほしい」と話していた。

いざという時に命を守るため、日頃から防災に関する知識を持つことが大切だ。自分の防災対策を見直し、防災に対する意識を高めよう。【藤田実呼】

地震が発生したら・・・・

命を守る時間帯	地震発生 0分～2分	自分の身を守る	テーブルの下にもぐるなど落下物から頭を守る。調理中であれば台所から離れる。外にいるときは、かばんなどで頭を守る。
二次災害を防ぐ時間帯	地震発生後 2分～5分	火の始末 出口の確保	揺れがおさまったら、火の始末。出火していれば小さいうちに初期消火。余震に備えてドアを開けるなど出口の確保。ガラスなどでけがをしないよう靴をはく。
	5分～10分	我が家の安全確認	家族の安否確認。家屋の被害状況を点検・余震で被害拡大の恐れがあれば避難の準備。沿岸部では津波に備え、すぐに高いところへ。ラジオなどで情報収集。
まちを守る時間帯	10分～半日	隣近所の安否確認と助け合い	隣近所で生き埋めになっている人はいないか、火災がおきていないか、声をかけ合って確認。生き埋めやけが人がいれば協力して救出救護。災害時要配慮者の安否確認、安全な場所への避難誘導。
生活を守る時間帯	半日～3日	２～３日は自分でしのぐ	電気・水道のライフライン、食料などの流通が途絶えるため、3日程度は自宅にある飲料水、食料などでしのぐ。隣近所で食材を持ち寄って炊き出しする。
復旧・復興へ	3日以降	本格的な復旧開始	防災機関の応急・復旧活動が本格化。ボランティアが被災地に来るなど被災地外から支援が来る。住民、ボランティア、行政などが一体となり復旧・復興へ歩み始める。



地震に備える三か条

○グラッときたら、身の安全
・頭部の安全確保

○寝ている間の安全確保
・家の耐震補強
・家具等の配置・転倒防止

○もしものための非常持ち出し
・さっと持ち出せるよう日頃から準備

この３つの図は上田さん提供

地震 夜間や休日に多い 家庭でも様々な対策を 呉羽消防署にきく

地震や火災では、基本的な知識を知ることや事前に対策をすることによって被害を最小限に抑えることができる。新聞部は、国際高の管轄である富山市呉羽消防署を訪ね、消防係の石倉直毅さんに地震や火災について話を聞いた。

ブレーカー落とし地震火災防ごう

地震が起きたとき、二次被害として火災が発生する「地震火災」というものがある。特に地震火災では、地震の揺れによりコードが断線することで電流が流れ、その周囲から燃え広がる漏電火災が多い。東日本大震災では火災が300件近く起きており、その過半数は電気が原因による火災だった。漏電火災にならないためにも、地震が起きた時にはブレーカーを落とすとよい。しかし、漏電火災は後から起きるので、まずは自分の身を守ることを第一に考えることが重要。また、地震発生時に設定以上の揺れを感知すると自動でブレーカーを落としてくれる「感電ブレーカー」という装置の設置も有効だそうだ。

日本では、電気による火災が令和3年度で約1400件起きており、死者数は増加傾向にある。電気火災になる最大の原因として、維持管理が不適切であることが挙げられる。コードに負荷がかからないようにすることや、ほこりがたまらないように管理することが大切だ。

気を引き締め 避難訓練を

国際高では、昨年は9月と10月に避難訓練を行った。法律では、年に1回以上は学校において行わなければならないことが決められている。しかし実際のところ、あまり真面目に避難訓練に参加していない生徒もいるのが現実だ。石倉さんは「避難の際には非常放送をよく聞いて、状況を判断して共有することが大切」と指摘した。

火災では、煙に気をつける必要がある。煙に含まれている一酸化炭素は無色透明で無臭であるため気づきにくく、呼吸ができなくなる。ハンカチで口を塞ぎ、姿勢を低くしながら避難しなければならない。福祉施設では、煙を吸わないためにビニール袋をかぶることもしているそうだ。地震においては、転倒しているものや割れている窓ガラスなどに注意しながら避難する必要がある。火災と地震両方に言えることだが、足を怪我すると動けなくなるので、足元をよく見て逃げることが一番重要だ。「今後は就職などして社会に出ると、避難の指示を聞く立場から出す立場になる場合もある。気を引き締めて避難訓練を行う必要がある」と強調していた。

熱く語る石倉さん＝呉羽消防署

家庭での対策 簡単なものから

地震は、統計的に自宅にいる時間が長い夜間や休日に多い。したがって、家庭ではハザードマップを見ながら、安全な避難ルートや避難場所について話し合うなど、簡単なものから地震対策を行うことが大切だ。家族で避難場所を決めておくと、家族とすぐ会うことができるので緊急時に安心。避難所にも種類があり、第1次避難所には小学校の体育館、第2次には中学校の体育館、第3次には高校や短大、大学などの体育館が指定されているそうだ。

避難時には道路の状況などにより行政から3日間以上、支援物資が届かないことがあるので、最低3日間は生活できるように防災バッグを用意しておくとよい。睡眠中に地震が起きる場合もあるので、家具の下敷きにならないためにも大きな家具は固定し倒れないようにし、安全に逃げることができるように靴やスリッパを寝室に用意することも対策となる。

酸素ボンベを背負わせてもらう新聞部員

記者の目

石倉さんは「いつでも開放しているので、生徒の皆さんも呉羽消防署に見学に来てください」と話していた。実際、新聞部は消防車や救急車についても詳しく教えていただいた。消防署では、消防士の皆さんが24時間態勢で火災や地震、救急の対応だけでなく、水難事故の解決などにも尽力されていた。【宮川篤志】

避難場所

番号は上のマップと対応

区分	名称
広域避難場所	1 富山県五福公園
第1次避難所	1 桜谷小学校
	2 五福小学校
	3 神明小学校
	4 四方小学校
	5 八幡小学校
	6 草島小学校
	7 倉垣小学校
	8 呉羽小学校
	9 長岡小学校
	10 寒江小学校
	11 古沢小学校
	12 老田小学校
	13 池多小学校
第2次避難所	1 西部中学校
	2 和合中学校
	3 呉羽中学校
第3次避難所	1 富山大学附属小・中学校
	2 富山工業高校
	3 富山大学五福キャンパス
	4 富山大学杉谷キャンパス
	5 富山商業高校
	6 呉羽高校
	7 富山短期大学
	8 富山総合支援学校

第１次避難所… 災害発生時等において第１次に開設する避難所で、主に小学校体育館を指定
第２次避難所… 第１次避難所に収容しきれない場合等において、第２次に開設する避難所で、主に中学校体育館を指定
第３次避難所… 第１次避難所、第２次避難所が収容しきれない場合等において、第３次に開設する避難所で、主に高等学校体育館等

まとめ 「自助」の努力で減災を 抜き打ち避難訓練と飲料水備蓄を提案

地震調査推進研究本部の最新データでは、30年で3％以上の確率で国際高付近の呉羽山・砺波平野断層帯で地震が発生すると予測されており、発生時に本校が二次災害に遭う可能性が高い。二次災害は、停電、断水、公共交通機関停止による被害、長期避難所生活による健康不良などが問題となる。しかし、これらは日頃の対策で「減災」することができる。

国際高で行われている取り組みとして、耐震構造の堅固な校舎、定期的な避難訓練などが挙げられるが、これだけで十分な対策とは言い難い。そこで新聞部は、避難訓練のさらなる強化と、飲料水の備蓄を提案する。

いま、本校で行われている避難訓練は年2回。どちらも火災を想定した訓練だ。避難訓練の実施回数は法律で定められた基準に達しているが、訓練内容に改善すべき点がある。それは、全生徒が自分の教室にいる前提として訓練が行われている点、訓練の実施日時が事前に知らされている点だ。災害はいつ起こるか予想できない。生徒がバラバラに過ごしている昼休みや、移動教室の際にも十分に起こり得る。呉羽消防署の石倉さんの指摘でもあった通り、生徒一人一人が非常放送をしっかり聞いて避難経路を確認し、避難できるように抜き打ちでの避難訓練も行うべきだろう。

また、国際高では地下にある貯水槽で水の貯蔵が行われているが、これからの夏は熱中症や脱水症の危険があり、二次災害で水道が止まることを想定してより多くの飲料水を備蓄する必要がある。3次避難所に指定されている隣の富山短大に備蓄されている飲料水だけでは、到底足りない。

もちろん、防災対策は学校だけでなく、家庭内でも必須だ。平日、1日のうちの16時間ほどを自宅で過ごす私たちは、家庭内での対策が欠かせない。家庭内でやるべきことは最低限、2つある。

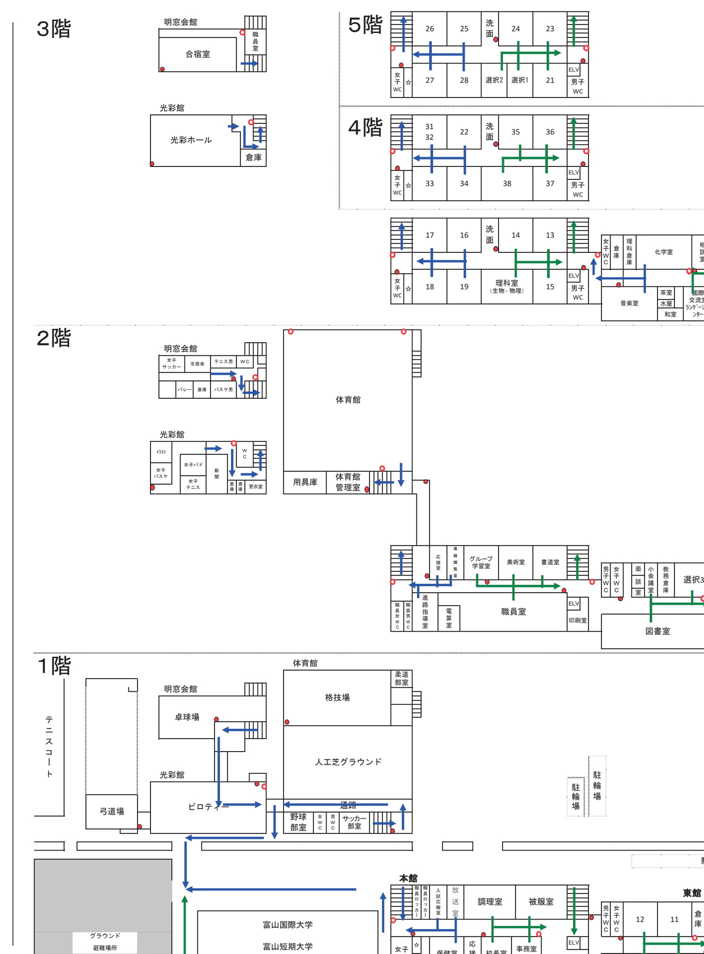
1つ目は、非常用持ち出し袋の準備だ。災害時、避難所での食料配給が開始するまでの日数は最速でも1週間とされている。それを踏まえ、家族の人数分×7日分の食料、飲料水を入れた非常用持ち出し袋の用意が必要だ。そして、玄関など避難の際に確実に通る場所に置くことが推奨される。

2つ目は、家具の配置の工夫や固定だ。地震は縦揺れだけではない。家具を配置する際に気をつけることは、寝床の頭上に大型の家具を配置しないことだけと思っている人がいるが、それだけでは実際不十分。地震の揺れは多方面に渡るため、頭上に大型家具を置かないこと以外に、大型家具と寝床の間に家具の直径分の間隔の確保が必要になる。また、根本的に家具が倒れないように、突っ張り棒などで固定することも二次災害を防ぐことに有効だ。

自然災害は、予期して防ぐことはほぼ不可能だ。しかし、災害を防ぐことはできなくても努力次第で「減災」をすることはできる。私たちがするべきことは、日頃からの備えによって自分自身の身を守る「自助」の行動だ。新聞部が行った生徒アンケートの結果の通り、8割以上の生徒がこれといった防災対策を行わず、学校で行われている対策も知らない、というのが国際高の現状だ。私たちはもっと自分事として、いつ来るかわからない地震に備える必要がある。【柳澤和音実】

国際高の避難経路図（今年度）

●は消火器、○は消火栓を示す



「富山は地震が起こりにくい？」→「これからはわからない」 ↑その噂は大地震の記憶風化か

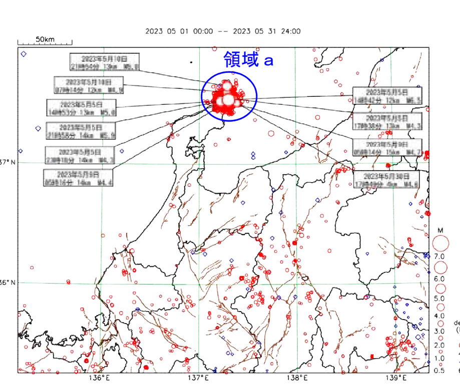
富山にも潜む地震リスク 富山地方気象台 岡 地震津波防災官にきく

日本が世界に占める国土面積は0・25％なのに対して、世界で起こっているマグニチュード6以上の地震のうちの約18・5％は日本で起こっている。そんな地震大国に住む私たちだからこそ、地震について知るべきだと考えた新聞部は、富山地方気象台を訪ねて地震津波防災官の岡慶幸さんに話を聞いた。

まず、富山は地震が起こりにくいという噂の真偽について聞いた。岡さんの見解としては「今までは地震が起こりにくかったかもしれないが、これからは分からない」。確かに、2013年から2022年の約10年間で起こった震度1以上の地震の観測回数についてのデータによると、富山県は全国で最も少ない117回だ。ただ、地球が動いている以上、いつ地震が起こっても不思議なことではない。こうした噂が広まった理由として、時間の経過による大地震の記憶の風化が考えられるという。

次に、これから富山で大地震や津波が起こる確率について聞いた。過去のデータから割り出した、周辺にある活断層帯地震発生確率では、30年で3％以上。津波は、発生確率がやや高いとされる30年で3～26％未満だそうだ。さらに、地震調査推進研究本部の最新データでも、地震では呉羽山・砺波平野断層帯が30年で3％以上、津波を引き起こす可能性のある海域での地震としては、秋田県沖から佐渡島北方沖・新潟県北部沖から山形県沖での地震発生確率が3～26％未満と、やや高い評価だ。

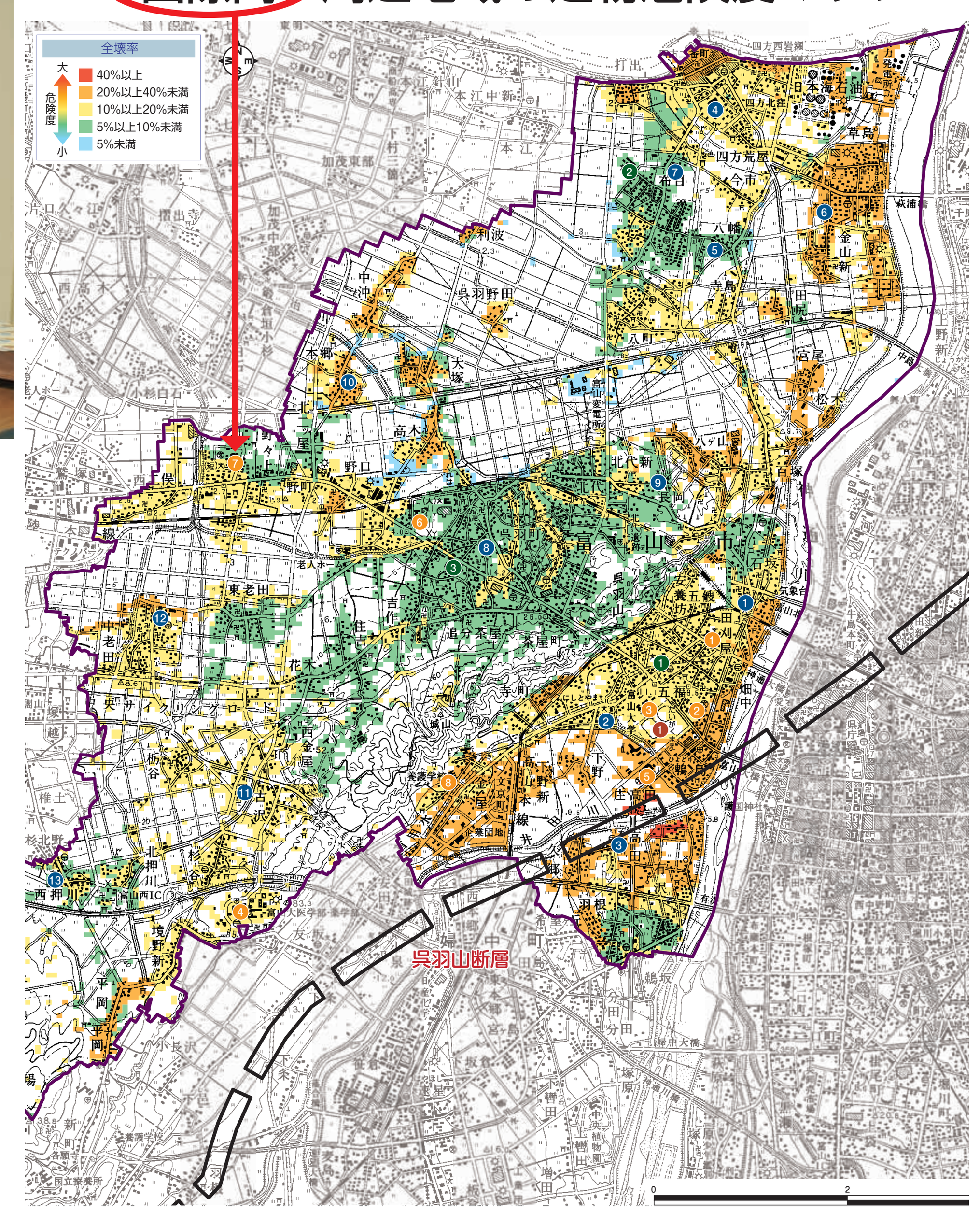
国際高の近くでの地震リスクについて尋ねた。国際高の近辺には、呉羽山・砺波平野断層帯がある。そのため、ここで地震が発生すると国際高は地震の被害を受ける危険性が高まる。また、隣の石川県には、地震発生可能性が高いとされている森本・富樫断層帯が存在している。さらに、射水市や海にも断層があるとの研究もある。富山県全体で、地震の被害に遭う危険性が存在することを認識し、地震や津波に備えることが大切だ。



今年５月の富山県周辺の震央分布（富山地方気象台提供）

専門的見地から話す岡さん＝富山地方気象台

国際高 周辺地域の建物危険度マップ



初夏から秋、冬が二次災害増

地震による二次災害が最も起こりやすい季節を聞いた。気象的なアプローチをするならば、初夏から秋と、冬が地震による二次災害が最も起こりやすいという。初夏から秋にかけては、梅雨や秋雨、台風の影響を受けやすいため、大雨による土砂崩れや地盤の緩みの危険性が高まる。また冬には、大雪や雪崩などの二次災害が危険だ。さらに、暑さや寒さによる避難施設内での生活環境の悪化も考えられる。そのため、季節に応じた災害対策が必要となる。

今年の5月5日に発生した能登半島の地震のメカニズムについても聞いた。結論から言えば、現状では明確な原因は分かっていないそうだ。しかし、政府の地震調査委員会によると、地殻変動域の変化、地震活動の浅部への移動、電気伝導度の分布などから、今回の活動には流体の移動が関与している可能性があるという。ただ、これまでの地震活動および地殻変動の状況を踏まえると、「一連の地震活動は当分続くと考えられている」とされており、引き続き地震や津波に対する備えが重要だ。

自然災害は、我々の想像を遥かに越える力で襲ってくる。しかし、日頃から防災・減災対策をしておくことで被害を少なくすることができる。特に大切なことは、自分自身の身の安全を守るための「自助」。地震に備えるため、今日から自助に取り組んでほしい。【村野魁俐】

富山地方気象台

国際色豊かなキャンパスに驚嘆

２年生　東京方面の大学訪問

将来への視野広げる

２年生の東京方面大学訪問が７月10日から11日にかけて行われ、特進コース52人と国際英語コースの希望者15人が都内の大学を見学して将来への視野を広げた。

キャンパスツアーに臨む生徒達＝上智大学

一行は10日午前、新幹線で東京駅に着いた後、バスで移動。まず、上智大学四谷キャンパスに向かった。文系理系ともに9学部29学科が集結し東京ドームより大きな同キャンパスで、グループに分かれて学生のガイドによるキャンパスツアーに臨んだ。80か国以上の外国人学生や留学生が在籍している国際色豊かな上智大。図書館は自分の興味ある本を歩きながら探せる開架式で、世界各国の新聞を読むこともできる。ここで学食を体験した後、自由見学となった。

その後、文系は中央大学の多摩キャンパス（5学部）、理系は後楽園キャンパス（理工学部）に分かれて向かい、それぞれ自由に見学した。多摩キャンパスは広い敷地に学食やカフェなども充実しており、イスラム教の関係で豚肉やアルコールを口にできない人のためのハラールカフェもあった。

夕食をとった後、代々木の宿舎、国立オリンピック記念青少年総合センターへ。ここで夜、本校卒業生によるワークショップが行われ、都内の大学に通う6人から現在の大学生活や入試の準備、心構えなどについて話を聞いた。

2日目の11日は、文系は立教大学の池袋キャンパスと目白の学習院大学、理系は東京理科大学葛飾キャンパスと立教大池袋キャンパスをそれぞれ訪れ、自由に見学したり大学の説明を聞いたりし、昼食をキャンパス内でとった。キリスト教精神に基づく立教大には大きなチャペルなど歴史を感じる建物が多くあった。

参加した生徒は「たくさんの場所を大学生の方に紹介してもらったり、研究している様子を見られたりして、大学の雰囲気を直接感じることができた。とても貴重な体験ができて良かった」と話していた。

伝統芸能に引き込まれる

大蔵流狂言を鑑賞

芸術鑑賞会が７月12日、富山能楽堂で行われ、江戸時代より４００年にわたり続く狂言の名家、京都・大蔵流の茂山千五郎家を迎えて全校生徒が狂言を鑑賞した。

「蝸牛」の名演＝富山能楽堂

狂言は本来、能楽の間に公演される演目で日本最古の喜劇と言われている。演目の前に「狂言鑑賞教室」が開かれ、役者の茂山茂さんから解説を聞いた。狂言は室町時代には既に成立しており、当時は屋外で公演されていたこと、その名残で現代の屋内にある能楽堂には屋根がついていることなどを教わった。さらに今回の演目のあらすじや、狂言での笑いや泣きの表現法について分かりやすい解説があった。

今回の公演では、「附子」と「蝸牛」の二つの演目を鑑賞した。附子とはトリカブトから取れる猛毒のことで、主人に附子の番を申し付けられた使用人の太郎冠者と次郎冠者が主人の嘘を見破り、さらに逆手にとるという一連の出来事を滑稽に描いている。

また、「蝸牛」は、主人から長寿の薬となる蝸牛＝カタツムリをとってくるよう命じられた太郎冠者が、それがどんなものかわからず、竹やぶで寝ていた山伏をカタツムリと思い込む。カタツムリになりすました山伏は、「でんでんむしむし」と囃しながら、次第に太郎冠者と主人を巻き込んでいくというストーリー。

国際生は公演中、静かに鑑賞していたが時折笑いも起こっていた。鑑賞した生徒は「思っていたより親しみやすく面白かった。あまり見る機会がないのでとても良い経験になった」と話していた。

【松村春佳】

知進寮にて

学生時代

毎日を表情豊かに嬉々として過ごす生徒を見るたびに、3年間を能天気に走り抜けたあの日々を思い出す。

私の母校は京都にある大谷中高等学校といい、鎌倉の僧侶である親鸞を開祖とする本願寺がその母体である。そのため行事は仏教関係が多く、中でも入学式はお経を読みながら新入生が登場するため、保護者から学校に心配の電話がかかることが一つの風物詩となっている。

そんな仏教色のある高校で私は寮生活をして、さらにその濃度を高めていった。

ところで、皆さんは寮生活と聞いて何を想像するだろうか。おおよそ想像しているような生活を私は3年間したと思う。毎日7時に起床し登校から、18時までの門限。それから19時半から22時の自主学習と規則正しく、朝から夜までトイレと睡眠以外は一人になることがなかった。

そんな誰もがうらやむ素晴らしい生活を送れる寮には入るための条件があった。それは県外でかつ仏教課程を履修する者であること。つまり、僧侶になるための特別授業を放課後に3年間、受講しなければならない。また、7時の起床から寮内の掃除、7時半から朝のお勤め（お経を読むこと）、18時には夕事のお勤めと、毎日2回お経を勤める。そして、夕事後には感話という、日々感じたことを寮生の前で2分間以上のスピーチをしなければならないのである。

このような生活を毎日3年間過ごしてきた私に対して、皆さんはどんな思いを抱いたであろうか。可哀そう、俺はできない、刑務所だ…etc

これらは当時から口々に言われてきた。実際、私もこんな生活が嫌で嫌で仕方がなく、長期休みが終わりに近づくたびにブルーになっていた。

しかし、この生活も徐々に順応して日常へと変わっていき、楽しみを見出すようになった。深夜に屋上に集まってだべったり、仏間で裸相撲して怒られたりと、これ以上記すには憚られるような珍事が毎年のように起こった。ここには孤独や寂しさとは無縁の環境があった。そうして卒業するまでに、私は規律正しい生活習慣と僧籍と一生の友ができた。

思えば、この寮生活がなければ教師を目指すこともなかったであろう。今の私は卒寮した時にすでに出来上がっていたのだと気がついた。今、こうして忙しさにかまけ顧みることのない生活をしているが、このような振り返るきっかけをいただき、つくづく私は多くの幸恵とご苦労があって教壇に立っていることを痛感する。

そんな青春そのものであった「知進寮」が、今年度をもって閉寮することとなった。帰る場所がなくなったような悲しみをおぼえる。最後の別れのためかつての学び舎へ赴き、経年劣化で黒ずんだ外観と対照的に寮生が丹念に掃除したであろうきれいな内観は当時と変わらなかった。

帰り際、ふと寮監室の机に1枚の写真が飾られたままになっているのに気付いた。それには今から14年前、卒業した寮生をうらやむ自分が写っていた。当時を懐かしみ、また身近に飾っていた恩師の情の深さを思った。

淺井多聞 先生（国語）

写真は、知進寮で高校１年生の時（淺井先生は後列左から５人目）

自転車の運転にヒヤリ

１年生　交通安全教室ひらく

１年生の「交通安全教室」が７月５日、光彩ホールで行われ、交通ルールの遵守と正しい交通マナーを身に付けることが交通事故の防止につながることを学んだ。

この日は富山自動車学校から講師の方を招き、講話では主に自転車や電動キックボードなど免許なしで乗れる交通手段の利用方法についての話を聞いた。「自転車利用五則」、①車道で左側走行、歩道の場合は歩行者優先で走る、②交差点では信号と一時停止で安全確認、③夜間の場合ライトを点灯、④飲酒運転の禁止、⑤ヘルメットの着用、の5つを改めて確認した。道路交通法改正などの話では自転車のヘルメット着用が努力義務になったことを強調していた。

後半は、「自転車シミュレーター」の運転に代表生徒2人が挑戦。前と左右を確認しながら安全に目的地まで行けるかを試すシミュレーターはリアリティがあり、車と衝突してしまう場面ではスクリーンで見守っていた生徒たちから悲鳴が上がっていた。「自分を守るためにルールを守る」ということを再認識させられた。

【長沼明凜】

自転車シミュレーターに挑戦する生徒

続・海外特派員通信

困難乗り越え成長や自信に

小川　桃音さん（32Ｈ）Ｆｒｏｍカナダ

毎回好評の、海外留学中の国際英語コース生による「海外特派員通信」。今回は、昨年　9月から6月までカナダ・ニューブランズウィック州のSimonds High Schoolに留学していた小川桃音さん（32Ｈ）に伝えてもらう。

ホストファミリーにプレゼントしたお揃いの服を着て、庭で（小川さんは右）

こんにちは、小川桃音です。私はカナダのニューブランズウィック州、セントジョンにあるSimonds High Schoolに10か月通っていました。セントジョンは人口約6万5千人の港湾都市で、海に面していることからカナダの中では比較的寒暖差が少なく、気候が安定している都市です。私は語学力の向上と異文化交流を目標に留学に行きました。

私の通っていた学校は留学生が多く、ヨーロッパや南アメリカ、中東やアジアからの留学生が在籍していました。お互いの国や文化について教え合ったりするのはとても楽しかったです。私は何度か、留学生の友人たちに巻き寿司を振る舞いました。日本で一度も作ったことがなく不恰好でしたが、みんな喜んでくれて「美味しかった」「また作ってね」と言ってくれました。また、イタリア人の留学生が「本物のパスタを食べさせてあげる」と故郷の味のスパゲッティを振る舞ってくれました。日本でよく食べるスパゲッティとは味付けが全然違っていて驚きましたが、とても美味しかったです。

私がお世話になっていたホストファミリーは、ポルトガル人の女性とそのパートナーの家庭でした。ホストマザーはとても優しい人で、毎日夕食を用意してくれ、私が欲しい食材などもこまめに買い足してくれました。また、この家にはもう1人、ドイツからの留学生がおり、一緒に登下校したり遊びに行ったりと仲良くしていました。最初は意見が食い違ったり、価値観のギャップを感じたりしましたが、少しずつお互いの考えを受け入れ合うことができるようになり、自分のことをなんでもオープンに話せるようになりました。また、彼女は動物由来のものは食べないヴィーガンだったので、2人で同じものを食べるのは難しかったです。私は彼女に日本食を知ってほしくて試行錯誤しました。巻き寿司もですが、特に気に入ってくれたのは日本から持参した「ゆかり」でした。彼女は「ゆかり」のことを毎回英語で「茶葉ちょうだい」と言うので、その度に「違うよ」と訂正していました。

学校の授業は、日本の高校にはない科目がたくさんあり、選ぶのが楽しかったです。しかし、期末試験がある科目やない科目もあり、同じ教科でも難易度が違ったりして、うまく調整できずに後々後悔していた友人が何人かおり、授業選択は気をつける必要がありました。授業で特に難しいと感じたのは、心理学でした。面白そうだなと軽い気持ちで選んだのですが、覚えることが山のようにあり、テスト範囲が広く苦労しました。ですが、日本の高校では学べない知識がついたので、私はこの授業をとって良かったと思っています。授業でわからないことがあったら積極的にクラスメイトや先生に聞き、わかるようになるまでホストシスターに手伝ってもらいながら復習しました。

学校では学期や季節ごとにいろいろなスポーツをすることができ、私は1学期、水泳部に所属しました。他にもチアリーディングやラグビー、ホッケー、陸上などもありました。また、ハロウィンやクリスマスに学校で開かれるダンスパーティーに行ったりと、西洋文化を満喫しました。

この10か月間、親元を離れて生活するのは楽しいことも多かったですが、ハプニングも多く、トラブルは自分で解決しなければなりませんでした。これらの困難を自分で乗り越えたことが、精神的な成長や自信につながったと思っています。

部説

貴重な海外交流の機会逃すな

～積極的な行動で自身の成長につなげよう～

7月4日から10日まで、アメリカの姉妹校であるチェスタートン高校から国際高に14人の生徒が訪れた。1～3年生のクラスに入り、国際生と一緒に授業を受けたり、様々なアクティビティに参加したりした。国際生の側にも、この貴重な機会を生かして留学生と交流した人は多いだろう。

こうやって日本にいながら外国の方々とコミュニケーションをとる機会は、それほどたくさんあるわけではない。しかも学校を卒業して大人になるにつれて、自分から探していかない限り、その機会はますます少なくなっていく。国際生の中には、留学生に話しかけてみたいけれど英語が苦手だから話しかけられないという人や、そもそも外国人とのコミュニケーションに慣れておらず不安だという人もいるだろう。しかし、こうやって学生のころから外国の方々と交流することは、私たちの将来にも大きな意味を持つ。

例えば、外国の方々と実際に交流することで、効率良く言語力が養われる。「どうにかして自分の意思を伝え、相手の意思を理解しなければ」という状況に自らの身を置くことで、教科書で勉強しているだけでは得られないよるすれ違いからトラブルに発展しないよう、異文化理解を心がけ、相手の気持ちを考えて常に思いやりの心を持って接しなければならない。

英語を学習して英語能力を高めることは大切だが、文法や発音を間違えることを恐れるあまり、自ら交流を遠慮してしまうことは非常に残念だ。英語に苦手意識を持っている人も、まず笑顔であいさつして自分から交流していくことが大切だ。例え流暢に話すことができなくても、簡単な単語だけでも良いからどんどん発言していくべきだろう。そうやって話していくうちに耳が慣れ、正しい発音を覚えるようになっていくかもしれない。

積極的に異文化交流を図ろうとしている人間を笑ったり馬鹿にしたりする人はいない。交流の輪を広げることで、新しい価値観を発見し、自分自身の成長につながる。相手に対する思いやりと尊敬の気持ちを忘れず、今後も海外交流の機会を活用していくべきだ。

流の場では、言葉を使ったコミュニケーションが難しくなる分、身振り手振りをいつもより多用して、言いたいことを積極的に伝えようとすることが可能になる。

また、生まれ育った場所の違う、多彩なバックグラウンドをもつ人たちと交流することで、多様な価値観に触れることができる。そしてこれまで常識だと思っていたことが、実は常識ではないことに気付かされたり、自分の考え方が変化したりする。

外国の方々と円滑にコミュニケーションをとれるようになる方法として、普段から笑顔で接したり、あいさつを欠かさないようにしたりすることが挙げられるだろう。また、ジェスチャーを交えて話すことも重要である。しかし何よりも、意思疎通が困難なことに経験を積むことができる。

他には、積極性を養うという面でもメリットがある。日本人は一般的に、初対面の相手への接触行動や、非言語コミュニケーションが少ないと言われている。しかし国際交

新聞大学に入ろう

３階にコーナー設置

このほど、東館3階のホールに「新聞大学への入り口」コーナーが設置された。朝日、読売、日本経済の全国紙、北日本、富山の地元紙と、英字紙ジャパン・ニュースの計6紙が置かれ、生徒達が自由に読むことができる。

毎日、前日の新聞が上に置かれていき、常時、過去1か月分以上の新聞がテーブルに積まれている状態になる。

掲示されているパネルには「新聞は大学に匹敵する知識と学びを与えてくれることから、購読することを新聞大学と呼ぶ」と書かれている。仲井校長先生は「3年生だけでなく、少しでも早い時期から新聞に親しみ、知識を深めて思考の対象を広げ、思考力と判断力を鍛えて」と話した。

「新聞大学への入り口」コーナー

編集手帳

お疲れ様です　蚊
完成してよかった…　緑茶
お金がたまりますように　ひ
夏休み万歳！　はは
夏休み満喫したいです
生ハム
体重計乗ったストレスで太った　わ
はる
ずっと見てるよ。　ぬぼう
ずっと寝てたい　夏
そろそろ勉強で禿げそう　狐
がんばります！　おにぎり
お疲れさまでした　はるか
お菓子美味しい　ポッター
私はひゅーまん。　ちゅーりっぷ
1＋1＝3ってエモすぎ。　バタ氏
9時間睡眠　つぐ
ピーチが食べたい　も
チョコ大好き☆　かいちゃん
寝るのが好き　弟
実はAB型　マヨコーン
暑すぎる　ハルジオン
愛ちてる　ヤッピー
すみません今火星にいます　いひ